

看護・医療科学類

学生の確保 (人)	年次		定員	志願者	受験者	合格者	入学者	
	1年次		70 ※ -	152 ※ -	119 ※ -	78 ※ -	70 ※ -	
	1年次 (医療科学主専攻)		37 ※ -	193 ※ -	154 ※ -	42 ※ -	37 ※ -	
	編入学・再入学		- ※ -	- ※ -	- ※ -	- ※ -	- ※ -	
学生の進路 (人)	卒業者	就職者	就職者の内訳			研修医	進学者	その他
			企業	教員	公務員			
- ※ -	- ※ -	- ※ -	- ※ -	- ※ -	- ※ -	- ※ -	- ※ -	- ※ -

・※は外国人留学生を内数で示す。

1 看護・医療科学類の活動

〔教育〕

看護学主専攻、医療科学主専攻ともに、教育効果を上げるために、複数の開設科目で、履修年次・学期の変更を行った。看護学主専攻では、実習受入施設の関係者を対象に、本学類の教育課程等の説明会を実施し、また、新たな実習施設を開拓した。新しくお願いした実習施設との打合せ会も行った。2年次生対象の授業が平成16年4月から開講されるのに合わせ、実習機器を更新ないし新規に揃えた。また、教員が講義や実習で使えるように、教室に持ち込めるポータブルの液晶プロジェクターを備えた。教員の教育実践能力を高めるために、全教員を対象として、FDに関する講演会を行った。

本学類は設置後間もないため、知名度が低いと考えられたので、広報活動を強化した。「高校生体験学習」、「大学説明会」、「高等学校出張講義」、「大学ガイダンス」など、機会ある毎に学類の紹介を行い、学類HPに入試情報を公開し、受験生への便宜を図った。全国から、「大学説明会」には約300名、「高校生体験学習」には105名が参加し、参加者からは「有意義であった」とのアンケート結果を得た。

〔学生生活〕

4月に、1泊2日の新入生オリエンテーションを行った。準備と実施に大きな負担を担当教員に掛けるが、学生との交流ができたこと、学生同士の絆がしっかり作られたことなど、大変に有意義であった。参加学生を対象にアンケート調査を実施したところ、80%の学生から「宿舎研修が有効である」との結果を得た。この評価を参考に、次年度も1泊2日の予定で新入生オリエンテーションを実施することにした。今年度はクラス連絡会を一回開催した。学生側から授業に関する要望が主に出され、教員側からは駐輪場に関する学生への要望などが出された。建設的な意見の交換がなされ、本学類に内在する問題について、学生と教員が直接対話できる大切な場であることが相互に確認できた。

2 教員の教育業績評価の状況

漸く、一回生、1年次の授業が終わった段階で、教員の教育業績評価をするまでには至っていない。次年度以降に、本学類独自の授業アンケートを実施し、教育の改善に役立てる計画である。

3 自己評価と課題

看護学主専攻では受験科目が敬遠されたためか、受験者数が伸びていない。本学類では、上記のような、積極的な広報活動を行う傍ら、多様な入試形式の検討を行っている。優秀な学生を継続的に確保できるように、実施可能な入試形式を見つけ、早急に取り入れることにした。